

---

# エッセー集パート2

夢野ユーマ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

エッセー集パート2

### 【Nコード】

N4632U

### 【作者名】

夢野ユーマ

### 【あらすじ】

日々思ったことや経験したこと。

改めまして

エッセー集パート2開幕です。

まだ6月ですが、真夏のようです。（\*―\*）

最近は敷き布団の上に掛け布団を置き、その上で寝ています。タオルをお腹にかけて。

さて、「エッセー集」は仕切り直しましたが、別に何も新しいことは始まりません。前冊と一緒にです。前冊と基本的には登場人物も一緒です。もし気が向いたら前冊もご覧下さい。日常のことや文学のこと、芸術のことなどが書いてあります。

またご感想などもお気軽にどうぞ。仕事をしているので、急には返せない時もありますが、だいたいちゃんと返します。

新しい一冊の第一話だから、少し自己紹介を。

私は大学で日本文学を勉強し、卒業とともに教える側に回りました。

文学は読むのも論ずるのも何でも好きです。

文学が好きじゃない人が多いことはわきまえています。ただ好きな

ふりをする人間には非常に厳しいです。( - | - ; )

文学の他、映画、お芝居、クラシックコンサート、美術館なども好きです。

食べることも好き。お洒落で美味しい店を探すカンには定評あり。

逆に苦手なのは団体行動やアウトドアです。( || | || )

好きな食べ物はご飯。おにぎり。お寿司。サンドイッチ。ピザ。ス  
イーツ。牛肉。パスタ。シーフード。フライドチキン。おそば。天  
ぷら。野菜。お魚。鍋料理。何でも食べまっせ。

好きな作家は山田正紀、津島佑子、町田康、清水義範、竹西寛子先  
生。

好きな小説は専攻の「源氏物語」の他にトーマス・マン「トニオ・  
クレエゲル」マリオ・バルガス・リョサ「世界終末戦争」中井英夫  
「虚無への供物」などです。

正直なところ、東日本大震災のショックで活動が停滞していたので  
すが、今日、短編小説を一つ書き上げました。タイトルは「ベアト  
リーチェ」( = 。 - 。 ) ( || 。 - )

## 「スコット・ピルグリム」

素晴らしい作品を観てしまった！カナダの映画「スコット・ピルグリム」

カナダの映画だが、テーマは日本のオタク文化！日本のアニメ、マンガ、ゲームなどはハリウツドの映画人などにすごい影響を与えている。去年、日本文化を取り入れた傑作として「第9地区」があったが、「スコット・ピルグリム」はコメディであり、何度も大爆笑してしまった！

スコット・ピルグリムは白人の少年でオタク。あまりカッコよくなく、性格も最低に悪い。わがままで弱虫で意地悪で。

魔性のホモの少年の家に居候し、めんどろをみてもらっている。このホモの少年が一番カッコいい腹の据わったやつで、スコット・ピルグリムは毎晩一緒にベッドで寝ている。

しかしひょんなことから美少女に出会い、彼女の七人の元恋人が作った悪の軍団を倒す使命を負う。何て馬鹿馬鹿しい設定！トホホのホー！（ー！ー！）

しかしこれはあるダメな少年が好きな女の子のために自分の弱さを見つめる青春ストーリーで、最後、オタクのスコット・ピルグリムが今までの生き方を反省して自分自身を受け入れた時、悪の軍団は消える。

しかし、そういう小難しいことは考えずスコット・ピルグリムと元恋人軍団の戦いを見ているとあらゆるオタク文化のランドマークがちりばめてあって、すごく面白いのである。

私はハッキリ言って伝統的オタク文化が詳しくないので「テトリス」「ゼルダの伝説」「ファイナルファンタジー」などメジャーなものしか分からなかったが、日本のお笑い番組とかあらゆる小ネタがちりばめてある素敵な宝箱のような作品だった。オタクの人が見た場合、素晴らしさ200パーセント増しぐらいだろう。

是非観て欲しい。強くおすすめする。例えば映画中とところどころアニメになったりするのだが、その絵は日本の萌系のマンガの絵で大爆笑してしまった！

スコット・ピルグリムには日本のオタクがなくなってしまったもの全てがある。豊かなアイデア。なりふり構わずウケを狙う貪欲さ。整合性より面白さを追求するハチャメチャさ。そして愛しさと切なさ。と優しさ。

エドガー・ライトよ、こんな素晴らしい作品を作ってはいけない！日本のオタクは全て奪われてしまうではないか！！

エドガー・ライトよ！愛でオタクを殺せ！！

## 「抱きたいカンケイ」

この作品はロマンティックコメディという日本ではあまり人気のない、しかし私の好きなジャンルの映画である。

主演はアカデミー賞女優のナタリー・ポートマンと、アメリカの男性アイドルのアシュトン・カッチャー。

しかし、私は衝撃を受けた。

アシュトン・カッチャーはかねがね「ブラッド・ピットを妬んでいる」と発言しており、私はウケ狙いのギャグだと思っていた。しかしけっこう本意気だったことが分かった。

アシュトン・カッチャーは私と同年6thだが、顔面や体型が崩壊しかけていたのである。(TOT)

男30才も越えれば生活の疲れとか出てくるものだが、それにしても。(――;) )

そう思うと顔面も体型も全然崩れないブラッド・ピットすごいな。

ブラッド・ピット最新作でカンヌ映画祭優勝の「ツリーオブライフ」の予告編も見たが、映像も音楽も素晴らしかった。

「抱きたいカンケイ」そのものはだめ男とエリートキャリアウーマンの夢の話だった。それ自体は肩がこらず見られた。

「30を越えたら覚悟しろ!」という喝を入れられた。( - - ; )

## 「ザ・ホークス」

この作品は今年のベストワン候補！しかし一つくぎをさしておきたい。

私は大学時代、映画の作り方や鑑賞の仕方を岡田斗司夫先生から教わった。だから私は映画を論評する時、観念的でなくどの会社がどれぐらいお金を使っているかなど冷徹に分析している。

今回取り上げる「ザ・ホークス」はアカデミー賞の常連ラッセ・ハルストレムが監督。主要キャストもリチャード・ギア、アルフレッド・モリーナ、マーシャ・ゲイ・ハーデン、ジュリー・デルピーという一流キャスト。そして製作は私が若いころアカデミー賞を独占していたミラマックスだった。

それなのに、この作品は数十人しか入れない劇場での短期公開である。

洋画不振と言われるが衝撃を受けた。

私が若いころはヒューマンドラマもけっこう全国公開されていたのに（・・）

でもこの作品は破格に優れていて、面白い！もし観るチャンスがあ

れば、パワープッシュするが、ちよつと難しい内容なので、少し解説する。一切の予備知識なしで観たい方はここまででご遠慮下さい。

リチャード・ギアが売れない作家をやつていて、ある日とてもない詐欺を始める。歴代大統領を操つてきた大富豪でフィクサーのハワード・ヒューズの伝記を無許可で書き、出版しようとする。

そのためハワード・ヒューズに独占インタビューして取材したとか、偽の手紙を作つたりして大新聞や一流出版社をペテンにかける。

この辺りでウソもつき続けるとホントになるというイヤな話かと思つたら、この後の展開が素晴らしかった。是非ご覧下さい。

ハワード・ヒューズの伝記を書くため取材を進めると伝記が発表されると当時の大統領ニクソンを倒すことになる重大な情報が入ってくる。その辺りでリチャード・ギアは自分のウソにおしつぶされて精神に変調をきたし、後半は彼の夢、妄想ともとれるが、ニクソンも疑心暗鬼になり、ウォーターゲート事件を起こし、失脚する。そしてハワード・ヒューズの財閥が最終的な勝利をおさめる。

つまりどこかの時点で20世紀の怪物ハワード・ヒューズは自分を

だまそうとしている男を巧みにだまし、ニクソン大統領をつぶした  
ということが示唆される。ハワード・ヒューズこそ一枚上手のペテ  
ン師だったのである。

ウソと真実、そしてアメリカの政治を考えさせる骨太の傑作だった。  
本当に素晴らしい映画をありがとう（^^）／

## 「クレアモントホテル」

「スコット・ピルグリム」「ザ・ホークス」そしてこの「クレアモントホテル」と年間ベストワンクラスの傑作が相次いでいる。そういう時期が不思議とあるものである。

この「クレアモントホテル」は非常に上品、端正な作品で決して大ヒットはしていないが非常に親しみやすい秀抜な作品だった。

クレアモントホテルという古びたホテルにサラという老婦人がやってくる。

海外ではホテルに暮らすという習慣があり、富豪と貧困層の中間の老人たちがホテルに滞在しながら余生を過ごしている。サラはクレアモントホテルにすぐ期待していたが、少し古びたホテルで、風変わりな老人たちが不思議な感じで暮らしている。

小道具の使い方が粹で、昔の話なのかと思ったら老人たちは「セックスアンドザシティ」を見て、盛り上がっている。しかしサラはウィズワース（イギリスの文豪）を愛読する上品な婦人だった。ある日老人たちのリーダーの頼みでロレンスの「チャタレイ夫人の恋人」を借りに行くとルートヴィクというハンサムだが貧しく文学好きな青年に出会う。

そしてサラとルートヴィクの不思議な愛情と友情がほんわかと描かれ、さりげないのに飽きが来ない。ルートヴィクはサラの夫が好きだったウィリアム・ブレイク（これもイギリスの文豪）が好きなど細部の設定が秀逸。

ラストはどんでん返しというより非常に静かで上品だけど、是非ご覧下さい。

老い、生きる、文学、家族といったテーマが声高でなく上品に、だけれどしっかりと描かれ、本当に心にしみます。生きることの賛歌でした（；|；）

## リア充王子

タカフミ「（・・・；）」

カズマ「どうしたの？」

タカフミ「彼女が遊園地とか映画館とかありふれたデートスポット行き尽くしたから、どっか変わったところ行きたいっていうの。キャラメル隊助けて（・・・；）」

慶ちゃん、良ちゃん「ぶふっ（^^）」

Kくん「カブトムシ、山の中に取りに行く！」

マサキ「ハーレーダビッドソンに二人乗りして、まりあちゃんはタカフミに後ろからすがりついて、人のいる海水浴場行ったらダメ！人のいない崖とか行くの！」

慶ちゃん、良ちゃん「ギャーハハ！（^o^）」

ユージロー「東山動物園に土日に行くとニシキヘビを体に巻きつけてもらえるよ！」

ヒロキ「ラ・・・ラブホテル・・・」

慶ちゃん、良ちゃん「ふざけんな！（、o、）」

タカフミ「あつ、まりあちゃんから伏見の科学館で会おうってメールだ！じゃあね〜」

慶ちゃん「キャラメル隊、何の助けにもなってなかったね」

良ちゃん「夢ちゃん、何ふくみ笑っているんですか？」

夢「科学館のチケット午前中で売り切れるの黙ってる私のプチ意地悪（＾ー＾）／」

慶ちゃん、良ちゃん「ド力意地悪だよ！（、ε、）」

## 「ダンシングチャップリン」

日本映画を論評するの久しぶりだけど、「ダンシングチャップリン」観ました。

現代バレエの巨匠ローラン・プティがチャップリンの映画をバレエに再構成した現代バレエの傑作「ダンシングチャップリン」その主演のルイジ・ボニーノと草刈民代が引退することになり、草刈民代のダンナ周防正行監督が二人のバレエを撮影。それだけでも素晴らしいのですが何と周防正行監督、この本編を撮るまでにローラン・プティ、ルイジ・ボニーノ、草刈民代、チャップリンの息子ユーージンなどにチャップリンへの思いやバレエへの思いを語らせ、練習風景を撮影してドキュメンタリー映画を作成。全体は二部構成で第一部が「ダンシングチャップリン」を制作するまでのドキュメンタリー映画。第二部が「ダンシングチャップリン」本編（ただ映画なので、省略したシーンもあります）。

劇場でオペラやバレエを見るように第一部と第二部の間には五分の休憩があります。

結論としては前半も後半も手に汗握る面白さで、年間ベストワン候補です！

実は不思議なシンクロニシティで今日の午前中のニュースで、この「ダンシングチャップリン」の大元を作ったバレエ作家ローラン・プティが亡くなったとやっていました。その日にスクリーンの中

で最期の姿、また遺作になったこの映画を観られたのが感慨深かったです。ただ87だから大往生だけど元気！（- - -）監督の演出が気に入らないと怒って「映画化を許さんぞ！」と叱ったり、ヨーロッパの芸術家らしい。監督は監督でローラン・プティの陰口言ったり、本当にドキュメンタリーだった。

他にも草刈民代さんが相手の若いダンサーが下手だからクビにするところ。そして一流の助演ダンサーがかわりにやってきたのを見つめる若いダンサーの愚痴をさりげなく撮影していたり出ている人たちがみんな芸術の修羅（- - -）

そして多分本当の修羅で陰の主役はチャップリンで、ローラン・プティは若い時、サン・トロペの貴族の宮殿が何かで晩年のチャップリンと一緒に夏休みを過ごしたそうです。チャップリンは食事の度に必ず「黄金狂時代」のパンのダンス（パンにフォークをさし、足に見立てて踊らせる）を伯爵夫人たちに見せて楽しませるなど死ぬまで真剣に喜劇に徹していたとか（- - -）

このドキュメンタリー映画だけでもお腹いっぱいなのですが後半のバレエ「ダンシングチャップリン」も感涙！（- - -）

「黄金狂時代」「ライムライト」「キッド」「街の灯」などがバレエに再構成され、美しく面白い！動きが素晴らしい！チャップリンを評価していた偉人たち（ドビュッシー、マルクス、ジャン・コクトーなど）の言葉が紹介されますが、やはりチャップリンの作品はバレエやオペラ、音楽、文学など一流のものが基盤にあるからバレ

工に再構成することも出来るのでしよう。

前半も後半も本当に面白くおすすめです。私はチャップリンに特別詳しい訳ではないですが、すごく感動しました。(^^)

バレエなどは観たことがない人ほど是非観て欲しいです。

## 「八日目の蝉」

「ダンシングチャップリン」を観た後、「八日目の蝉」観賞。正直なところあまり期待していなかったのだが、原一男監督の「またの日の知華」以来の感動と衝撃を味わった。

あまり期待していなかったのに観たのは主役の永作博美の圧倒的な演技力を観たかったからだが、もう一人の主演井上真央ちゃん、助演の小池栄子、森口遙子、余貴美子さんなど主要女性キャストが素晴らしかった。

いろんな意味で女の映画である。正直かなりエグく、かなり怖い。私はある意味、このサイトの人のリテラシーをかなり期待しているので、けっこうつつこんで書く。

ネタバレごめんの方はここまでで。

作品は女の悪のカルマを描く。女の憎しみや嫉妬、狂気。その徹底ぶりはホラー映画に近い。しかしものすごいストーリーテリングにより最後、女たちの負のカルマが浄化され、本当に衝撃的なハッピーエンドが訪れる。それを見届け、感動の涙があふれて止まらなかった。

決して見やすい甘い作品ではない。悪い男にだまされ中絶をしたため妊娠できなくなった永作博美は男の妻に罵倒され、夫婦の赤ちゃんを盗み出し、逃亡生活を送る。この永作博美の過去パートと井上真央ちゃんの現代パートが交互に描かれる。

井上真央ちゃんは盗まれた赤ちゃんの成長後の女性だが永作博美と同じく不倫相手の赤ちゃんを宿す。しかし井上真央ちゃんはその子を産む決意をし、自身と育ての母の過去を見つめる。

意外な人物が過去パートと現代パートのブリッジになっており、ミステリの味わいもある。

そしてラスト近くに世界的舞踊家田中眠（正しい字が出ない（-\_-））が印象的に出てくる。そこが出演時間は数分かもしれないけど圧倒的演技力で凄まじい印象と強い感動を与える！助演男優賞当確！

逆に井上真央ちゃんの不倫相手役が劇団ひとりで、二人が全裸になつてキスシーンやセックスシーンを演じるのはあまりに気持ち悪く、ゾッとして吐きそうだった。監督は悪意の確信犯だと思う。

この作品は年末の映画賞でも必ず中心になると思うし、女性キヤストは演技賞を競うだろう。井上真央ちゃんはこんなすごい演技が出来るとはいい意味で裏切りだった。

あと余貴美子さんは美しさも演技力も抜群だが、怖かった。新興宗教の教祖役で髪型が怖い。永作博美が新興宗教団体に一時かくまってもらったが、この団体のディテールの描き方がすごく怖かった。自分だったら二分ぐらいで逃げると思う。

この作品は真剣に文学や芸術に向き合う人なら是非観て欲しい。  
本当に素晴らしい作品だった。( ; \_ ; )

## 芥川賞・直木賞

夢「明日、芥川賞の発表ですが、男性最年少の美少年水原涼くんが多分当確でしょう。ノミネート作『甘露』は父と姉の近親相姦を目撃し、オナニーのおかずにするいびつな美少年を描き、中上健次をお手本に書いたそうです！（b^ー。）」

Kくん「どアホーっ！（；、皿、）何が最年少の美少年や！十分キモメンやでーっ！最年少の美少年とか宣伝して金儲けしようって魂胆見え見えだわ！ドン引きだわ！何やその作品！このサイトにゴロゴロしとるキモいオタクの妄想と同次元やーっ！（；、皿、）」

慶ちゃん、良ちゃん「確かにこれがハンサム作家とかないわ・・・」

タツヤ「先生はこんな作品が受賞で納得ですか？これが受賞したら文壇はやっぱり腐った世界です！（、o、）」

夢「ギクッ（・・・）私も本来ベテランの山崎ナオコーラ先生と本谷有希子先生が受賞するのが本道だと思うけど。資本主義だから金が儲からないと・・・」

ゆか「やっぱり腐ってる！（、o、）」

夢「直木賞もかって綿矢りさや金原ひとみと最年少受賞を競った島本理生が当確でしょう。今までの文藝春秋への貢献度で（-|-）」

みんな「こんな腐った世界出てこっ！（、o、）」

夢「ああ、また出版社が自殺行為に走っている。神様明日文壇を終わらせないで下さい（；、；）」

ユージロー「大丈夫だよ。いつか本物が評価される日が来るよ（^）」

明日、運命の審判が！（外れて私の予想！）

## 試写会「デビルクエスト」(ーー・ー)

昨日、久しぶりに試写会に行った。中日スポーツ新聞さんのお招きである。ありがとうございました。

最近、なかなか忙しく「スカイライン」「マイティソウ」などの試写会にもお招きいただいたが、行けず、招待状は全部ケンゴにあげていた。

そして昨日、久しぶりに試写会に参加！何故か男性限定(ーー・ー)

しかしチャン・グンソクやキスマイフィートみたいな子がいるかもしれないと思い、行ってみたが老人と太ったオタクの少年ばかりだよ！(TOT)

太ったオタクの少年たちは座席でビニール袋いっぱいのお菓子を食べ出し、仕事帰りでドレスアップした自分はイライラしていた。(ーー・ー)

しかしそんな最悪の状態で観た「デビルクエスト」意外なひろいものだった！面白かった！

私が観ることにしたのは主演がニコラスケイジだからだった。ニコラスケイジは非常に優れた作品を見抜く力を持っており、日本では

あまりヒットしないが出演作は優れている。

また脇役がロン・パールマン（ギジェルモ・デル・トロの「ヘルボーイ」シリーズの主演）、クリストファー・リー（「ロードオブザリング」に悪の魔法使いの役で出ていた人）などしっかりしているのも気持ちこそそつた。

ところが作品はファンタジーが、歴史ものかと思うと、いわゆる普通のホラーに近く真夏に観るのいいのではないだろうか？

この先ネタバレです（――；）

タイトル通り旅する聖騎士やビショップたちが悪魔と闘い、使い魔や魔のオオカミと闘うなど私にとっては新鮮で面白かった。悪魔はCG（だと思う）だが、怖くない。日本のマンガなどの方がセンスがあると思う。

一番怖かったのは腐りかけの橋を必死で渡るところだった。（私は高所恐怖症）

夏休みにビニール袋いっぱいスナック菓子を持って観に行くといい

エンタメ作。まあまあ怖いし、一般向け。(^^)

## ブラックハート

夢「（＾ 3 ＾）　」

カズマ「先生、ご機嫌ですね（　　）」最年少美少年水原涼くん  
落選がそんなにつれしいですか？」

夢「いやっ（＾ 〇 ＾）そんなこと喜んでないよ！まだまだ未来があるんだから、頑張つて欲しいね（＾　　）」

みんな「（　　）喜んでる・・・どこまで心黒いんだこのジジイ・・・」

夢「今日は伊勢物語やります。筒井筒井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに」

ゆか「井戸と背比べした私の背丈は井戸を越してしまった愛しい君と逢えない間に」

夢「そう歌つて男は幼なじみと結婚するのですが、やがて浮気を始めるんですね（＾　　）」

タカフミ「（　　□　　）えー、ヤダ！浮気なんて最低！」

慶ちゃん、良ちゃん「モテるのにストイックなんだ（・・・）」

Kくん「一度浮気出来るぐらいモテてみたい！（・・・皿）」

慶ちゃん、良ちゃん「かわいそう（・・・）」

## キャラメル隊大ピンチ！

Kくん「（・・・；）」

カズマ「どうしたの？（・・・；）」

Kくん「キャラメル隊のみんな裏切ってごめん！（TOT）実はファム・ファタールと付き合ってたんだ（TOT）」

全員「ガン！（。□。；）」

夢「どうしてふったんですか？」

Kくん「付き合ったらすごい性格が悪くて・・・俺の周りの男全員とセックスしていたからふったんです（；皿）」

夢「（^^）Kくんはどこでえっちしたんですか？」

Kくん「いや・・・あの・・・えつと・・・」

夢「（^^）タカフミとまりあちゃんの写真はいつも二人で写っていますですがファム・ファタールの写真は一人でプリクラで撮ったやつですね」

慶ちゃん「何だウソだったんだ（^^）」

良ちゃん「あつた祭りの時、ファム・ファタールが取り巻きの男連れて歩いてる後ろをKくんが歩いてたのが付き合ってるって意味だったんだ（^^）」

ゆか「かわいそう（；；）」

夢「（^^）よかったよかった。これでキャラメル隊の虫捕り大会  
予定通り開催出来ますね」

Kくん「（；；皿）」

## スリリングラブ

カズマ、タカフミ、ケンゴ、ユータ「スリリングラブスリリング  
ラブ君に出逢えた奇跡

スリリングラブスリリングラブ僕は忘れず生きる

昨日までの僕

今日君に出逢えた

明日からの二人

恋はカフェラテのフレーバー

恋はラベンダーのアロマ

巡る七色のシーズンズ

スリリングラブスリリングラブ君に出逢えた奇跡

スリリングラブスリリングラブ僕は忘れず生きる

昨日までの傷

今日君が癒やした

明日からの勇気

恋は永遠のミステリー

恋は五線譜のラブレター  
巡る七色のシーズンズ

スリリングラブスリリングラブ君に出逢えた奇跡  
スリリングラブスリリングラブ僕は忘れず生きる

スリリングラブスリリングラブ君に逢えてよかった  
スリリングラブスリリングラブ僕は未来を駆ける」

慶ちゃん、良ちゃん「キヤー！（＾Ｏ＾）」

Kくん「（；、皿、）どアホーっ！何がスリリングラブや！高度経  
済成長の感じや！団塊の世代にしか売れへんわ！」

カズマ、タカフミ、ケンゴ、ユータ「♪君と僕  
二人の間にパフェ  
七色のアイス  
七色のフルーツ

君と過ごす夏  
君と分け合うパフェ

君が好きチェリーより  
君が好きピーチより

あー二人のラブパフェ  
あー二人のラブパフェ

君と僕

二人の間にパフェ

七色のアイス

七色のフルーツ

君と過ごす午後

君と分け合うパフェ

君が好きチョコより

君が好きナッツより

あー二人のラブパフェ

あー二人のラブパフェ

慶ちゃん、良ちゃん「キヤー！（＾Ｏ＾）」

Kくん「（；、皿）ネタやん！」

カズマ「僕たちのファーストシングルのA面とB面を聴いてもらいました！（＾－＾）次はセカンドシングル！恋の七夕summer」

カズマ、タカフミ、ケンゴ、ユータ「君と出逢ったね七夕summerのお祭り

一年に一度の恋は切ない

涙ぐむ君が優しくかった愛しかった

でも今ぼくたちは二度と逢えない

一年に一度の恋がうらやましい

恋の七夕summer

ぼくの涙雨になる

君と出逢ったね七夕summerのお祭り

一年に一回の二人切ない

涙ぐむ君が優しくかった愛しかった

でももうぼくたちは二度と逢えない

一年に一度の二人がうらやましい

恋の七夕summer

ぼくの涙雨になる

でもやっぱりつらくて泣きじゃくるばくに後ろから抱きついたのは・

ごめんなさい、ありがとう、二度と離さない、愛してる君を

ぼくたちを包む優しい雨」

慶ちゃん、良ちゃん「カッコいい!」

Kくん「(；、皿)どアホーっ!何が恋の七夕summerや!」

カズマ、タカフミ、ケンゴ、ユータ「♪(あしびきの山鳥の尾のし  
だり尾の長々し夜を一人かも寝む)

今夜一人で眠るトゥナイト

君がいなくてさみしい I miss you

また明日君に出逢うまで  
この長い夜をこえていく

一人の夜

長い夜

君がいない

涙ぼろん

今夜一人で眠るトウナイト

君がいとしく恋しい

I l o v e y o u

また明日君に出逢ったら

また僕の笑顔よみがえる

二人の明日

光る朝

君と過ごす

笑顔キラリ

明日必ず逢おうね

この夜をこえていく」

慶ちゃん、良ちゃん「よかった」(^^)」

夢「フフフ(^^) B S Kとカズマたちを競わせる」

Kくん「(；、皿) 俺たちはB S Kじゃない！キャラメル隊だ！」

## 「ロシアンルーレット」夏のおすすめ映画

暦の上では明日で夏は終わりだが、実感としてはあと2ヶ月弱は夏という感じと思う。

最近、映画の感想を書けなかったが何本か、特に夏休みにおすすめしたい作品を論評する。

まずは「ロシアンルーレット」

娯楽作品を求める人におすすめ。

何も予備知識が欲しくない方はここまでで。

私も何の予備知識もなく観たのだが、面白かった。ジャンルは何なのか分からない。ホラーとも言える。

しかしB級のホラーかと思ってみていたら、意外とすごく秀逸な作品でびっくりした。

ある豪邸に男たちが集められ、ロシアンルーレットをやっている。そして金持ちたちが誰が生き残るのか賭けをやっている。こう書く

とダメな作品の感じがすると思う。ところが監督は何故か引き算の効果、表現法がよく分かっていて、どうでもいい細部はネチネチ描くの、根源的な疑問は忘れさせる巧みなストーリーテリングをする。（究極的には誰がこの地獄のギャンプルをどうやっているかは分からないまま終わる。そういう意味ではダークファンタジーと言える。）

しかし主人公の描き方に工夫があり、非常に引き込まれ、あり得ん設定もチャラにされる。またこういう映画の場合、ある程度、小説や映画に親しんでいる人なら結末は予想出来るのだが、そこで終わらず、その先が面白い意味で「えー!？」と展開していく。正直、中盤から監督は並々じゃないと思って、後で調べたら、これの原作でヴェネツィア映画祭最優秀新人賞を取っており、そのアメリカ版と分かった。

ちょっと残酷なのだが、多少そういうの平気ならデートで観てもけっこう彼女が怖がったり、なかなかいいと思う。

面白いもの、豪快なもの、好きな若い人向け。

## 「アウェイク」夏のおすすめ映画？

先回りするとこの「アウェイク」はアメリカでワースト映画賞をたくさん取った。確かにアメリカ人が嫌うような内容である。しかし私はこの作品を夏のおすすめ映画としてパワープッシュする。娯楽作品として素晴らしい上、クライマックスでは涙がとめどなくあふれて止まらなかった。

しかしこの作品は紹介が難しい。出来ればここまで読んだら必ず観て欲しい。ネットなどで下調べもおすすめしない。不意打ちをくらって欲しい。

あえてストーリーには一切ふれず主要3キャストだけふれる。

主役はヘイデン・クリステンセン。ダース・ベイダーの若い時をやっていた子である。顔やスタイルは正統派である。

ところがヘイデン・クリステンセンは金がたくさん入るアイドル映画を何故かやらず、わりと通な作品選びにこだわる。

私がこの作品を観たのもヘイデン・クリステンセンのこだわりに期待したからで賭けに勝った。

ヘイデン・クリステンセン自身はこの作品では活躍せず、若奥さんの役のジェシカ・アルバと、母役のレナ・オリン（私が絶賛した「ザ・ホークス」のラッセ・ハルストレム監督の夫人）二人が女の業をむき出しにしてバトルする。そこが恐ろしく、しかし素晴らしい。これほど激しい演技のぶつかり合いは久しぶりに観た。

ストーリーはちょっとでも説明するとネタバレになるので、本当に是非おすすめ。

サスペンス、推理、女のバトル、好きな人向け。デート推奨。ただし観終わった後・・・

## 「SOMEWHERE」夏のおすすめ映画？

あまりこのサイトにいないが本格的映画、芸術、文学好きな人向け。  
昨年のヴェネツィア映画祭優勝作品。

正直そんないいの？と思っていたが、ノックアウトされた！近年出  
色の傑作だった！

監督はソフィア・コッポラ。フランシス・フォード・コッポラの娘  
である。

しかしその作品は小津安二郎をほうふつとさせる映画史の金字塔に  
なった。

ハリウッドに本当にある高級ホテル、シャトー・マーマント。そこに  
ずっと住んでいるアクションスターがいる。世の中の人とはどんな素  
晴らしい生活だろうと憧れるが実は馬鹿馬鹿しく、虚しく、孤独で  
ある。そこに別れた妻についていった11歳の娘がひょんなことで  
やって来て、一夏を過ごす。そして男の命は輝きだす。しかし男は  
あくまで愚かで娘と愛人を同席させたり、愛が欲しいがどうしたら  
いいか分らず苦悩する。そしてそこで作品はフワツと終わる。

日本の庶民を描いた小津安二郎に比べ、ハリウッドの虚飾を描き正  
反対のようだが、悪人はいないのに傷つけあう家族。セリフに語ら  
せすぎず映像美で丁寧に心理を分らせるなどの共通点がある。美

しく穏やかに見えても登場人物の心の修羅をひしひしと感じさせ、  
飽きが来ない。

何気ない日常こそが人間の生きる輝きで、しかしすぐなくなってしまうという優しさと残酷さ。  
今こそ大事な人と観て欲しい。

## 「奇跡」(T.O.T)

久しぶりに号泣したわ(T.O.T)

今日、是枝裕和監督の最新作「奇跡」拝見した。大都市圏では夏前からやっていたが岐阜県というど田舎の悲しさで今日やっと観たのだが、もう参った。今年のベストワン決定！上映中はもちろん帰り道も涙が止まらなくて困った。

JRが九州新幹線開通を記念して是枝裕和監督に依頼して製作した作品なのだが、素晴らしい作品なので自信を持つておすすめする。

九州新幹線が開通し、福岡と鹿児島の新幹線が交差する瞬間を見ると願いがかなうという噂を子供たちが聞く。その中心はまえたまえだが演じる兄弟。両親が別れてしまい、兄は母親と鹿児島に、弟は父親と福岡に暮らしている。そして兄は家族みんなで暮らすという願いを持つのだが・・・

映画の紹介記事にもだいたいこう書いてあるが、実際全部を観てみると兄弟それぞれの友達七人がしっかり描かれ、素晴らしい内容になっている。

傑作「誰も知らない」も五人の子供を上手く描いていたが、今回はそれより人数なのに人物造形はさらに巧みになっていてびっくり

した。

自分の性格もあるのだろうが、真面目な兄よりパツパラパーの弟と父に惹かれた。母親は大塚寧々。じいちゃんは橋爪功。ばあちゃんは樹木希林。じいちゃんの友達が原田芳雄さん。友達のママが夏川結衣。学校の先生が阿部寛と長澤まさみと非常に周りの大人も素晴らしい役者が揃った。

実は是枝裕和監督は「誰も知らない」の後「花よりもなほ」「歩いても歩けども」「空気人形」とたくさん作品を作り、高く評価されているのだが、チャンスがなく観られなかった。

そして今日久々に監督の作品を拝見し、「誰も知らない」の社会への激しい怒りは美しい哀しみに結晶し、哀しみの中、人間と生きることを讃える内容になっていて、それもびっくりした。

監督は自分よりは年上だと思うが何か心境の変化があったのか？

別人かと思うが、怒りの名残もちよつと感じる。

でもそれでも生きていこう、生きるとは素晴らしいという賛歌に本当に涙、涙。

是非、劇場でご覧下さい。

あと、七人の子役があまり美男美女じゃないところもありリアルでいいのだが、一人美しさも演技力も別格の子があり、観終わった後に調べたらモツクンと内田也哉子さんの娘ということが分かった。

この子は数年のうちに主演作がたくさん作られる大スターになるだろう。すごい存在だった。

## 塩鯖ユータ

スリリングラブでフライング登場してしまったがユータはジョージ・チャキリス（私の大好きな「ロシユフォールの恋人たち」の主演でアカデミー賞をとった往年の大スター）に似ていてハンサムで、スポーツも勉強も出来る子で、モンハンも大好きだった。

教室のそばの定食屋で

ユータ「塩鯖と納豆の定食下さい（＾Ｏ＾）」

慶ちゃん「もつとお洒落なものの食べたらいいのに。ピアストラとか」

夢「私はカペッリーニと夏の焼き野菜（＾Ｏ＾）味つけはバジル」  
良ちゃん「いいよ、じじいは（ー・ー・）シャシャるなよ」

夢「あとデザートはアフォガードとおせんべい」

カズマ「アフォガード気取って飲んでアホだぞう」

夢「なんだと（、ε、）」

そんな庶民派アイドル、ユータだが、シャイだった。

夢「君と我乱れあはばや信濃なる穂屋のすすきしどろもどろに」（

激しく愛し合いたい。しどろもどろに）（注・こんなパーチクリンな歌を私が作ったと思うかもしれないが「緑弥生」という作品に出てくる歌で日本人は千年前からパーチクリンだったという私の持論を裏付けてくれるであろう。）

ユータ「こんなの問題にしちゃいけないですよ！（、ε、）」

夢「フォーフォフォ、ところがこういうのがよく出るんですよ（^^）」

ユータ「大学入ったら、こんなことあるのかな？（-.-;）」

Kくん「先輩はカッコいいし、頭もいいし、大学入ったら大丈夫ですよ（^^）」

ユータ「Kくんも面白いから共学行ったら彼女出来るよ（^^）」

優しいユータに幸あれ！

## 一番大切な友達

Kくん「たいへんだぜ！相武紗季の電話番号とメルアド手に入れたぜ！従兄のお兄ちゃん（ト）の親友の奥さんの近所の人（ト）が相武紗季と同級生だっただって」

ヒロキ「これは俺たちの宝にしよう」

みんな「（；ー；）」

ユージロー「たいへんだよ！まりあちゃん（ト）が泣いてる！（\*ー\*）」

まりあ「（；ー；）」

キャラメル隊「どうしたの？（・・；）」

まりあ「タカフミがK女学院の可愛い子をたくさん連れて、栄（名古屋の繁華街）歩いてたの！（TOT）」

（Kくん「神よ！俺はお前を憎む！何故タカフミに全て（ハンサムな顔、スポーツ万能でスタイルのいい肉体、勉強出来る頭のよさ、金持ちで立派な家柄、優しい両親、さわやかな人気者の性格）を与え、俺たち（キャラメル隊）から全てを奪った。そして何の落ち度もないまりあちゃんを苦しめる！？（、ε、）」

（あつ！でももしかしてこれって俺たちにやっと巡ってきたチャンス！？）

ユージロー「泣かないで・・・（；|；）」

マサキ「俺たちが大人の恋を教えるから」

Kくん「東急ホテルのデザートバイキング行こう！」

ヒロキ「このチョコレートフォンデュ美味しいよ！」

まりあ「（；|；）・・・ごめんね」

Kくん「次はにんにくラーメン食べて、カラオケ行こう！まりあちゃんのために歌うから！」

ユージロー「中島みゆき『恨みます』とか山崎ハコの『呪い』歌おうか？」

Kくん「どアホーっ！（；皿）『負けないで』とか『My revolution』とか歌って励ますんや！」

マサキ「キャラメル隊のオリジナルソングも作るから」

まりあ「（；|；）ありがとう、キャラメル隊」

ユージロー「あつ！タカフミだ！」

タカフミ「まりあ、誤解しないでよ！あれは従姉妹とその友達だよ  
(・・・)」

まりあ「(・・・)」そ、そうだったんだ・・・ありがとう、キャラメル隊、アタシ落ち込んだけど、もう大丈夫！(＾Ｏ＾)ありがとう！キャラメル隊は一生忘れない大切な『友達！』だよ！(＾Ｏ＾)」

キャラメル隊「ガーン(＊―＊)」！

慶ちゃん「ざまあ！(＾＾)」！

良ちゃん「お前らは下心見え見えなんだよ！」

キャラメル隊「(＝||＝)」俺たちには桐谷美玲がいるから・・・」

ゆか「桐谷美玲、年上の男が好きって言ってたよ」

キャラメル隊「ガーン(＊―＊)」！

エンディングテーマは桑田佳祐の「祭りのあと」か関ジャニ∞の「ズッコケ男道」で(＾＾)

## 日本の夏、俺たちの夏！

4時半    キャラメル隊起床。豊田の山奥でヒラタクワガタやカブトムシ、オオサンショウウオなど捕獲。

5時ごろ。ケンゴ、アマガミやペルソナ、モンハン、CODなどやり疲れ就寝。

6時半    夢、隣の神社で子供たちと老人たちがラジオ体操をやり始め目覚める。しばらく起床出来ず、ケータイをいじくる。

8時ごろ    夢、喫茶店で朝食。アイスコーヒー、トースト、焼きそば、サラダ、ゆで卵、果物、ヨーグルト。執筆を始める。大学の先輩に論文をパクられ、自己の正当性を証明するため「百人一首とは何か？」鋭意執筆中。

折々、カズマたちのアイドルグループの歌詞を作詞。

12時ごろ    夢、仕事のため名古屋に出かける

キャラメル隊昼寝

ユータ、塩鯖と納豆を食べる

ケンゴ、起床。

13時ごろ 夢、オープンカフェでペッシェスバーダとトロピカルグラニータ食べる。オープンカフェの店員もかたはらいたしと思っている。

14時 夢、センター試験の勉強を講義

17時ごろ キャラメル隊勉強に来る

夢、漢文や古文を講義

19時半ごろ 軽食をとった後、ケンゴなど教える。

22時ごろ 夢、名古屋から帰る。

キャラメル隊、夢の中

ユータ、ゆから優等生勉強。

ケンゴ、犬の散歩。その後、スカイプやゲーム。

23時ごろ 夢、帰宅、オレンジジュースとりんごジュースを飲む。NHKの深夜ラジオを流すうちに寝てしまう。

毎日暑い（\*  
―\*  
）

## 試写会「日輪の遺産」

今日、雑誌C2さんのご招待で「日輪の遺産」試写会にうかがいました。ありがとうございます（〃。・。）（〃。―。）

「日輪の遺産」は佐々部清監督の新作。第二次大戦をテーマにしています。原作は直木賞選考委員の浅田次郎。

8月27日から全国ロードショー！皆様是非ご覧下さい！（〃。・。）（〃。―。）

出来たら原作を読んで観る方がいいかもしれません。  
ネタバレごめんの方はここまで。

逆にネタバレ多少あってもガイド欲しい人には少しご案内を。

二次大戦の歴史に詳しくない人は陸軍大臣阿南惟幾の切腹、また日本が一番長い日と言われるクーデター未遂事件。その二つの事件はネット、Wikipediaなどで調べるといいと思います。

この二つの事件の背後の歴史秘話（もちろんフィクションと思う）を描きながら、二つの事件をからめるので、ストーリーテリングがホントらしくなり、迫力があります。また中心キャストの堺雅人、中村獅童、ユースケサントマリアが良かったです。

細部の時代考証がしっかりしていて、佐々部清監督らしい力量です。あえてわかりやすく妥協しなかったところに佐々部清監督の品格を感じました。

戦争に思いを馳せながら観て、平和の意味を考えて欲しいです。

## 「好色一代男」(舞台)

一昨日、読売新聞さんのご招待で御園座で片岡愛之助さんのお芝居「好色一代男」拝見しました。もちろん井原西鶴の最高傑作を舞台にアレンジしたものです。

原作を舞台にする時に演出が過剰でも味がなくなるし、そのままではお芝居にならないし。

でも今回はわりと上手く行っている感じでした。

だいたい西鶴の作品はエロの部分が強いのですが、そこはほとんど笑いと家族愛のドラマに置き換えていて、観やすかったです。

それでも原作を知っているとニヤリとさせられるところもあり(^(

また好色というつながりなのか音楽が全体的にイタリアの歌曲なのも面白い。

あと個人的に一番感心したのは「好色一代男」はもちろん「源氏物語」を江戸風に崩したもので、主人公世の介がいろんな恋をするのは母恋の気持ちからなのですが、そこが強調されていました。母役(同時に全体の語り手役)は竹下景子さんでさすがに大女優のアウラが出ていました。演出の岡本さとするさんはなかなかの手腕。

ただ私も母と観に行ったのだけど、母は片岡愛之助さん（ラブリン）より恋敵役の原田龍二さんの方がカッコいいと思ったそうです。いくつになっても女らしい。

## コミケの大冒険

ケンゴ「（・・・；）」

カズマ「どうしたの？（・・・；）」

ケンゴ「今から抜け出して、夜行バスで東京ビッグサイト行く」

カズマ「（\*|\*）マズいよ、週末の授業に出なかったら自由じじいも激怒するでしょう」

ケンゴ「（TOT）どうせ怒られるなら、夢をかなえてから！」ε  
εε「（・・・）」

カズマ「（\*|\*）ひいつ、ケンゴとタツヤとユージローが！」

ケンゴ「夜行バスって意外と狭いね（・・・；）」

名古屋から東京ビッグサイトへ・・・

午前5時東京ビッグサイトすでに全国から集まったオタクがひしめ

き、行列。

ケンゴ「暑い（＝|＝）・・・眠い（＝|＝）・・・帰りの夜行バスまでに中に入れるのか・・・？」

しかし何とか中に入れて・・・

ケンゴ「うわー、同人誌が売ってるだけじゃなくて出版社やゲーム会社のブースがあるんだ（・|・；）」

ユージロー「うわーすごくキレイな女の子がアニメキャラの格好でたくさん歩いてる！」

タツヤ「自由じいよりずっと年上のオタクがよっけおるで」

ケンゴ「俺たちも東方のキャラと記念撮影！（＾Ｏ＾）」

そのころ名古屋で

夢「そんなオタクの祭り行くために週末の授業をサボるなんてねえ（、ε´（）」

慶ちゃん、良ちゃん「ぶふっ（^^^）」

夢「こんな時期に首都圏行くなんて、熱中症で倒れてないかしら？  
(・・)」

週明け

カズマ「(^^) ケンゴすごくやけてるなあ！」

ケンゴ「すごく並んだから。みんなにお土産。けいおんとかフェイト、東方のグッズ、奈須きのこ先生の色紙、キャサリンのライター・  
・・」

みんな「ありがとう(^^)！」

夢「こんなものわざわざ買いに行くとはねえ(ε・)」

ケンゴ「(^^) 先生と慶ちゃんと良ちゃんと女の子のために腐の香りのするものを献上します」

慶ちゃん、良ちゃん「(^^) うい奴じゃ！」

ケンゴ「(^^) あゝ、よかった。来年も行こ！」

夢「来年は大学生としてね（・o・）」

## ライヴアル

みんな「法政大学頑張つて」（＾Ｏ＾）」

カズマ「（・・・）あんまり映らないかもしれないから期待しないで・・・」

みんな「・・・あ、何か映らないまま終わりそう・・・ダイジェストで終わりそう・・・」

カズマ「（＝＝）」

慶ちゃん「（＾Ｏ＾）でも鳥人間コンテスト出られてよかったじゃん！次は24時間テレビ見よ！ヒナのドラマ見よ！」

良ちゃん「（・・・）あっ！まだ地方コーナーやってる！」

カズマ「（。□。；）パパ！ママ！」

リポーター「ヒデキさんは豊田市でアミューズメント施設を営んでいます（^^）」

カズマ「（。□。；）何やってるんだよ！？」

ヒデキ「ふふふ、たとえ息子でも同じ土俵に立つならライヴアル！

フランス語で言うとRue!」

カズマ「(TOT) フランス語じゃねえよ! パパのそういうところを僕は子供の時から恥ずかしく思っていたの! (TOT)」

ヒデキ「ふふふ(^^)、カズマはパパに人気を全部奪われると思って焦っている」

夢「(――)(;) この親にしてこの子あり・・・」  
みんな「(――)(;)」

## 「阪急電車」

久しぶりに映画の論評。

今の朝ドラ「おひさま」の脚本家岡田恵和氏の映画の最新作「阪急電車」拝見しました（〃。-。）（〃。―。）

15分の阪急電車の電車内で宮本信子さん、芦田愛菜ちゃん、戸田恵梨香、谷村美月、勝地涼、南果歩、中谷美紀らの人生が交錯するという群像劇でなかなかよかったです。

中谷美紀が主演みたいな宣伝の仕方ですが彼女が自分を裏切ったカップルの結婚式にウェディングドレスを着て出席するという風に物語がスタート。自分の方がキレイということを見せつけるという中谷美紀はキレイどころか、かなり強烈な「怖」というアウラを出しており、すぐ作品からいなくなり、エピソードの方にまた出てくるだけなのは正解でした。キレイじゃないもん。怖いもん。

その分、出演シーンもセリフも多く、若者たちに人生を諭す役の宮本信子先生が輝いていて素晴らしかったです。

最近、気づいたんだけど、私が若い頃見ていた少女マンガ原作のドラマ「おそろべし音無可憐さん」「可愛いだけじゃダメかしら」などは岡田恵和氏が執筆していたのです。その特徴は魅力的なヒロインが世間の悪い奴にタン力をきって懲らしめることにありますが、今回は宮本信子先生が存分に活躍していました。（私が若い頃は榎

本加奈子がやっていた。）

あと戸田恵梨香がドメスティックバイオレンスを受けているという設定は「ラストフレンズ」のパクリだからちよつと格が落ちるけど、なかなか迫力があって怖かった。

ただ自分が女だったら相手がドメスティックバイオレンスふるった言葉パワーで再起不能になるまで叩きのめして出ていくけど。

あと戸田恵梨香の使っているケータイが私と同じで「若い子がそんなもん使わんわ! (、ε´) 」と突っ込んでしまった。

ところで、独立させて書くほどのことじゃないので、ここに書くけど、「おひさま」の主演高良健吾がNHKのトーク番組に出ているのをラジオで聴き、強い衝撃を受けた。映画界では高良健吾はかなり無軌道な悪という役が多く、暴力とエロスの印象が強いのに、素の高良健吾は「僕」と言い、非常に優等生だった。映画の中の悪を演じているにしろ、トーク番組で優等生を演じているにしろすごい演技力で末恐ろしい子だ（――；）（一応、本人の言い分ではデビュー作が悪とエロスの巨匠広木隆一監督の作品で鍛えられたからあらゆる役がこなせるそうだが、それにしても（――；））

## 三三旅行：三重の旅

さて、「奇跡」や「阪急電車」に刺激されたのか、生徒が東京ビッグサイトに行ったことを叱ったわりに私もふらつと旅に出ました。

大垣から近鉄で桑名まで。その道のりはのんびりで、風景は田園や植物、鳥、虫など。癒やしという言葉は嫌いですが、単純に美しい自然を見ると心がきれいになります。

そして桑名に来得ただけでだいぶ地域の感じが変わります。まず駅のホームにコーンブルメというパン屋の自販機があり、ドキドキ（  
。・。・）（＝。ー。）

また二階建ての特急も乗ってみたのですが、パン屋の自販機の写真を撮っていて、乗れなかった。

普通の快速に乗りましたが桑名から四日市、通過して津に行きます。四日市は県庁所在地でないけど、最大の都市でその周りは田園でないのですが、あとはだいたい田園です。

電車に乗っていても東海道線は殺気立った客が多いんだけど、三重の人は関西の人でほんわかしていました（^^）

津まで行き、三重県立美術館に行きました。福田繁男というトリックアートの作家の展覧会をやっていましたが、むしろ藤島武二、佐伯祐三、ダリ、ゴヤ、ミロなどの絵を常設展で観られたのが良かったです。

ミュージアムレストラン、ミューゼボンヴィアンで食事しようとしたらランチが5000円や8000円で手が出なかった（……）（でも満員でした）

仕方ないのでコーンブルメのパンを買って四日市へ。電車の中で食べました。

四日市は大都市なのでスターバックスで休憩すると博物館に行きました。

レオナルド・ダ・ヴィンチの展示をやっていましたが、ここも常設展がよかったです。

三重県の大物作家丹羽文雄の記念室。

丹羽文雄は生前は政治力で派閥を作り、いろいろ企画をやり、権力をふるいましたが、死後は忘れられています。

太宰治はよく日記に丹羽文雄が売っていて悔しいと書いていますが、

太宰治は永遠に読めますが、丹羽文雄が復権するのは難しいでしょう。

丹羽さん、あなたみたいに徒党を組んで金や権力を得ても、死後誰も愛してくれなかったらしょうがないじゃないの。そんな風に語りかけ涙を流しました。

しみじみしつつまた近鉄で大垣に帰りました。

来月もまた行こう。泊まりがけで。ミュゼボンヴィアンも行こう（^^）

## 笑われることと笑わせること

Kくん「へんがおーっ（^ 3 ^）」

ゆか、しほ、さゆり「ギャーハハ（^O^）」

ユージロー「僕は『もののけ姫』に出てた美輪明宏先生の真似やる！『アシタカ！お前にサンが守れるのか！？』」

夢「美輪明宏先生の真似は私の右に出る者はいなかったですよ！（、O、）『黒蜥蜴』のラストシーン『私の心の世界ではあなたが泥棒で私が探偵だった！あなたは私の心を盗んだ！』」

ゆか、しほ、さゆり「ギャーハハ（^O^）」

Kくん「へんがおーっ（ε）」

慶ちゃん「イタい！イタすぎるよ！笑われることと笑わせることは違うのに（＝＝）」

良ちゃん「変顔ってジュリア・ロバーツやブラッド・ピットがどんな変な顔しても美しさが壊れないことをアピールしているのに（＝＝）土台が変顔の子にやられても」

Kくん「キャラメル隊もまんざらでもないんじゃないか（^ー^）」  
「V」

ユージロー「アシタカ！お前にサンが守れるのか！？」

夢「私たちは双頭の鷲！」

慶ちゃん、良ちゃん」＝  
「＝

## タカフミになりたい

タカフミ「（・・・・・）」

カズマ「（・・・）」どうしたの？」

タカフミ「あちこちの女学院から学園祭の招待状と写真入りの告白メールが殺到してるの」

Kくん「タカフミは高良健吾にそっくりだもんな。タカフミは芸能界入っても絶対センター行けるよ。（^^）」

慶ちゃん「ぶふっ（^^）」

良ちゃん「お人好しなのがまた哀愁」（・・・・・）」

タカフミ「（^^）」ところで、これ見て。うちの新しいビルの落成式のパーティーの動画。ウェスティンキャッスルのシェフやコンパニオン呼んで、親戚や従業員招いてやったの」

慶ちゃん「（^^）いいな〜」

良ちゃん「クリスマスのライブ楽しみ」（^^）」

Kくん「（・・・・・）」生まれ変わったらカッコいいモテる男の子になりたい。ていうかタカフミになりたい・・・」

ユージロー「（TOT）」あっ、ズルい！僕がタカフミになるんだもん！」

マサキ「（；皿）タカフミは俺だ！」

タカフミ「僕、前世キャラクター隊いやだな（-.-;）」

キャラクター隊「ガン（\*ー\*）」

慶ちゃん、良ちゃん「ぶふっ（^^）」

## 怒りのチュロス

ユータ「うわー、僕のクラスの学園祭の模擬店ソース焼きそばだ」

夢「いいじゃない。ソース焼きそば（^^）」

ユータ「今年はチュロスが流行っているんです。女の子が集まるって」

（夢「（、ε´）チュロス？ソース焼きそばなら上手く作れるけど、そんな洒落たもの作れないね」）

キャラメル隊「チュロスやろうぜ！チュロス」

夢「何がチュロスか！山ピーが作ったソース焼きそばと南海キャンディーズの山ちゃんの作ったチュロスのどっちが食べたいか！？」

キャラメル隊「（、ε´）」

慶ちゃん、良ちゃん「山ピーのソース焼きそばの方が欲しいよね」

（（（。。。）（（。。——。））」

キャラメル隊「あとはバンドだな。俺たちの新曲。夏休みにオーストラリア行ったことを歌った『赤道を越えたへちゃむくれ』」

君に逢いに行くよ  
大切な君のところへ  
赤道もこえていく  
お月様だって行ける

真夏の日本を飛び出して  
君が住む真冬の国へ

俺は顔はへちやむくれだけど  
心はさりげなくギンギラギンだぜ

君に逢いに行くよ  
大切な君のところへ  
赤道もこえていく  
お月様だって行ける

真夏の日本は狭苦しい  
君が住む自由の国へ

俺は顔はへちやむくれだけど  
心はワイルドアットハートだぜ

君に逢いに行くよ  
大切な君のところへ  
赤道もこえていく  
お月様だって行ける

俺の熱いハートで  
震えてる君を抱きしめる

カズマ「僕たちのアンサーソングは『真冬の国からメルボルン』」

降り注ぐ雪ブリザード  
私はあなたを待つ  
真夏の国から真冬の国へ  
8月の美しい朝焼けを思い  
私はきつと涙を流すでしょう

踏みしめる冷たく広い大地  
空は何て高く遠い  
そして隣にあなたはいない  
私は孤独を抱きしめる

あなたの手、あなたの愛  
振りほどいた私は冬のエトランジェ

でもあなたは逢いにくる  
冬と夜を越えて

降り注ぐ雪ブリザード

私はあなたを待つ

真夏の国から真冬の国へ

8月の美しい朝焼けを思い

私はきつと涙を流すでしょう

あなたの手、あなたの愛  
私を優しく包みこむ

キャラメル隊「あと各女子高の招待状集めな」

慶ちゃん、良ちゃん「（・・）」

## ハッピーオータム学園祭

パンパカパーン！

Kくん「チュロスだよ！お洒落で美味しいチュロスだよ！」

ユージロー「たいへんだよ！前田敦子にそっくりな可愛い子がいたよ！」

ヒロキ「さ、この席にどうぞ、何でも食べさせてあげるからね（＾＾）」

マサキ「（、ε、）はい、そこで意地汚くチュロスやクレープやソーシ焼きそばを貪っているボケたおじいちゃんと底意地の悪い腐男子と小姑みたいなたい乙女はちゃんと現金で支払ってね！つけはきかないよ！」

慶ちゃん、良ちゃん「（、o、）」

ゆか、しほ、さゆり「（、ε、）」

夢「あら、この生クリーム美味しく出来てるわね（＾＾）」

みんな「（・・・・・）」

Kくん「俺たちの前田敦子と写真撮ろう（＾＾）」

ヒロキ「前田敦子に似てるって言われない？」

？「言われます・・・・（・・・・・）」

マサキ「今、つきあってる子いるの？」

？「……いません（……）」

ユージロー「（^^）キャラメル隊の演奏聴いていてね」

？「……（……）」あの……僕、前田敦子にそっくりだけど  
男子です」

キャラメル隊「ガン！（\*—\*）」

慶ちゃん「ざまあ！（^^）」

良ちゃん「君は僕たちのグループに入りなさい（^^）」

ゆか「タカフミが体育館のステージでBUMP OF CHICK  
ENの『アルエ』歌うよ！」

慶ちゃん、良ちゃん「キヤー（^o^）」

Kくん「（。□。：）そうだ！タカフミ目当ての女の子ナンパしよ  
うぜー！」

しほ「ハイエナじゃんー！」

さゆり「ほっつておきましょう（……）」

体育館で

タカフミ「♪♪♪（^^）」

ユージロー「ねえねえ知ってる？（^^）『アルエ』ってエヴァンゲリオンの歌なんだよ。レイアヤナミってイニシャルで書くとRAってなるでしょ」

女の子たち「ごめんなさい。アタシたちエヴァンゲリオン興味ないんで（-\_-）」

ケンタ（実行委員）「ナンパとか不正なことするやつは出て行って！（、o、）」

Kくん「（；皿）なんだよ！こんなシケた学園祭、ナンパ出来なかったら面白くないじゃん！」

マサキ「（、ε、）出てってやるー！」

ユージロー「（\*—\*）あれっ、あそこで可愛い子がからまれてる！」

みゆ「（；|；）」

意地悪な女子「てめーはフミくん（タカフミのこと）としゃべってたから、アタシたちのグループからは仲間外れだからね」

Kくん「（；皿）やめろよ！イジメだぞ！」

ヒロキ「こんな性格ブスのグループ仲間外れで正解だよ！」

マサキ「（；皿）ブス！ブス！帰れ！」

みゆ「（；|；）ありがとう」

ユージロー「キャラメル隊の打ち上げにおいで（^^）」

みゆ「（・・・；）・・・ありがとう、キャラメル隊。でもそれはそれ、これはこれだから、アタシはフミくんの打ち上げに行きます。ごめんなさい」

キャラメル隊「ガーン（\*ー\*）」

慶ちゃん「ざまあ（^^）」

良ちゃん「お前らは下心見え見えなんだよ」

キャラメル隊「俺たちには武井咲がいるから・・・（＝|＝）」

ゆか「武井咲とつきあうには佐藤健か山本裕典みたいにならないと  
( - - ; )」

キャラメル隊の明日はどっちだ!?

## 大森立嗣監督（前編）

一つ前の話を書くまで、1ヶ月ぐらい空いてしまいました（――；）

別に忙しい訳でもないのにすいません。

映画、美術、コンサートなどの感想もたまっているので、出して参ります。

さて、大森立嗣監督の「ケンタとジュンとカヨちゃんの国」観ました。ベルリン映画祭など世界的な映画祭で高く評価された作品ですが・・・不思議な感じでした。

正直に言うがたくさん粗<sup>あら</sup>があり、そこを減点していく評価の仕方だと点が残らないのですが、強い印象が残るのです。正直に正直に書く<sup>と</sup>、これ自体は偉大な失敗作だけど、監督はすぐに傑作を作ることを確信しました。

「ケンタとジュンとカヨちゃんの国」はケンタ（松田翔太）とジュン（高良健吾）とカヨちゃん（安藤サクラ）の三人が閉塞感あふれる日常を抜け出し、北海道まで行くのですが・・・

ファンの人にはお詫びするけど、主役の松田翔太が下手くそ過ぎてかなり減点。

逆に高良健吾は今までもたくさん傑作に出ていますが、ベスト演技と言ってもいい。

ちょっとこの辺りから核心にふれるので、ネタバレNGの方はここで。

松田翔太と高良健吾が旅するため、盗品を売りに行くシーンで巧妙に伏線が貼ってあり、高良健吾は松田翔太のことが好きで最後、松田翔太を殺して自殺するつもりだなと気づき、涙があふれて止まりませんでした。最後、実際そういう風に展開していくのですが、近松門左右衛門の「心中天網島」「曽根崎心中」をほうふつさせました。そういう哀しみやイノセンスを体現出来る高良健吾がすごい！  
(･･････)

しかし逆に二人は軽い知的障害があり、孤児院？で育ち、子供の時からかばいあってきたという設定で最後、心中しかないというのはギリギリと不満や憤りを感じました。

そういう苦しみや哀しみを背負った二人が希望や幸福を見つける作

品を作って欲しかった。

しかし、その希望は一日でかなったのです。  
(続く)

## 大森立嗣監督（後編）

さて、名古屋の名画座で大森立嗣監督作品を二本立てでやっており、「ケンタとジュンとカヨちゃんの国」の翌日、「まほろ駅前多田便利軒」観ました。

これは素晴らしい作品だった！年間ベストワン候補！

実はこの作品は三浦しをんさんの直木賞受賞作の映画化ですが素晴らしいキャラクター造形やストーリーテリングでした。原作を読みたくまりました。

町田で便利屋さんをやっている瑛太のところに松田龍平が転がり込んできて、日々便利屋さんをやっているうちに細かい事件がリンクして、ハラハラの展開になって来ます。

この作品も瑛太は下手とまでは言いませんが、物足りない。しかし松田龍平が素晴らしい存在感です。松田龍平は近年、「蟹工船」「ボーズオンザラン」「誰も守ってくれない」など出演作に外れがないです。

瑛太は子供の時、松田龍平に大ケガをさせてしまったという弱味があるので、松田龍平を仕方なく居候させるのですが、実は便利屋さ

んとしてみんなを助けている瑛太本人が秘密の心の傷を抱えて人の愛を強く求めており、それにそつと寄り添う松田龍平の不思議な雰囲気素晴らしい。

また細かい事件の陰にいる重要な人物の役を高良健吾がやっており、ちよつとの出演ですが、印象深い。

自分の願いは高良健吾と松田龍平のダブル主演です。

大森立嗣監督は希望、幸福、人のつながりを描いた作品をあまりやりたくなかったのかもしれませんが、すごくよかったです。また実は監督の弟が大森南朋、父が暗黒舞踊の巨匠磨赤児さんなのですが監督はストイックに家族の出演は拒否していました。しかしその封印がとかれ、二人も印象的に活躍していました。

芸術作品を作っている監督がアイドル映画をいくつか作ったりするとかえって作風がすごく進む時があります。（SABUや瀬々敬久など）

大森立嗣監督、大ファンになりました。これから注目します。

## m i x i のゲーム

これから書くことはけっこう頓珍漢な可能性がある。（もともとパ  
ーチクリンなことばかり書いているので、エクスキューズは必要な  
いかもしれないが）

実は最近、このサイトに不満もあるが、それ以上にm i x iのゲー  
ムにけっこうはまっていた。

それは本格的なゲームをやる若い子からするとけっこう頓珍漢だと思  
うが、私のライフスタイルには比較的合うのである。

まずはまっただのはサンシャイン牧場というやつ。悪友のながとさん  
がいろいろリクエストを送ってきて、だんだんやりだした。

牧場で作物や動物を育てるというもので時間が経つと勝手に育って  
いく。

仕事が終わった後に「おー育ってるなー」とチェックするのにだん  
だんはまっていた。基本的にコツコツ型で私に合っている。

ところが二つの問題が起こった。

いろんなイベントがあり、マイミクの方にリクエストを送って進め  
ていくのだが、私は友人が少なく、友人に助けてもらうイベントは

あまりコンプリート出来ない。

そこでmixi上でコインを買ってお金で友人の助けを代用？するようになった。

こついうのを課金制というらしい。あんまりはまると怖いらしい。私は1カ月に新しいゲームを買うようなものと考えて、一定の額でとどめている。

サンシャイン牧場の次に最近、力を入れているのはビックリマンというゲームである。

これもマイミクの方のお誘い。

これもマイミクと協力していくスタイルで、こつちはほとんど課金制は使っていない。比較的、マイミクの方との協力が上手くいっている。

私は子供の時、ビックリマンのシールはあまり持っていなかったのだが、有名なキャラは懐かしいなと思ってやっている。

のんびりしたペースだが、けっこうやっている。

## m i x i の日記 ( - - - )

またm i x iのネタなのだが、m i x iの中にはニュースのコーナーがある。普通のニュースだけでなく、芸能ニュースや、雑誌の記事、インターネット上の記事などを見ることが出来る。さらにその記事に合わせて、日記を書くことが出来る。

実はこのニュース日記自体がけっこうとんでもないことが書いてあるのだが、今日はそこは置いておく。

最近、そのニュース日記の中にとんでもないものを見つけたのである。

法に触れるようなものではないのだが、道徳的などにいかがかと思われることがあるので、ちょっとぼやかして書く。

実はニュース日記を見ていたら、小説家になろうで頑張ってるしやる皆様には悪いが、すごく読ませる日記を見つけたのである。いや、日記ではないのかもしれない。

三百話ぐらいあるのだが、一話一話にストーリーに起伏、緩急があり、しかも絶妙に次回に続くようになっていて、私は三十回ぐらいまで一気に読んでしまった。

その内容を簡単にまとめるとある男性が難病を患い、一定のところにいると悪化するので、日本中を転々と放浪しているというものである。

私は医者でないので、一定のところにいられない難病とかあるのか？など疑問を抱いた。  
またあまりに構成がしっかりしていること。そういうことに作り話かな？とも思った。

しかし！そういう疑問が揺らぐぐらい、一話一話の中のエピソードにリアリティがあるのである。

リアリティがあるというのはきれいごとでなく、かなり犯罪ギリギリの周りの人間とのせめぎ合いの心理、心情が描かれている。ちょっと怖いぐらいである。

すごく失礼だが小説家になろうサイトでここまで迫真のリアリティで書けている作品を拝見したことがない。

作り話だとしたら、すごい才能である。本当の話なら、身近に來られたら困るが、すごい人である。

しかし私はパンドラケースを開けてしまった（・・・・・）

あまりに結末が気になってしまったので、最終回を読んだら出会い系募集みたいなことが書いてあって、ガックシ（-\_-）

何だ出会いか・・・

手に汗握って読んだ時間を返せ！（ε、ε）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4632u/>

---

エッセー集パート2

2011年10月18日12時00分発行